

地理的な見方・超入門—分布図を作ろう— —地域調査 Myまちウォッチング—

稲城市立稲城第五中学校 後田 博

1. 地理的な見方を鍛えよう

新学習指導要領、地理的分野の目標の一つに、「地理的な見方や考え方の基礎を培う」とある。

「地理的な見方とは、日本や世界に見られる諸事象を位置や空間的な広がりとかのかわりて地理的な事象として見いだすことである」(文部省、大阪書籍)今回は、この地理的な見方の基礎を培う方法について考えたい。

目の前にある事象は、極端に言えば、すべて地理的事象である。学習者が位置や空間的な広がりとかのかわりの視点で見ることにより地理的事象になるのである。この視点こそが「地理的な見方」である。

わかりやすく言えば「どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか」という視点で常に事象を見る目を養うことで、地理的な見方を培うことができるのである。

この目を培うためには、今までのような教師が教える学習ではなく、生徒自らが考え、生徒自らが学ぶ、体験的な学習が効果的である。実際に生徒が自ら体験することにより、初めて培うことができるのである。

そうであるとするれば、生徒自らが体験できる作業や

活動をどのように中学校の授業に取り入れるかが大きなポイントになる。

そのような意味において、目の前の景観を学習することができる(直接経験地域)「身近な地域」の学習は、地理的な見方の方法や楽しさ、醍醐味を味わうことができる最適な単元である。

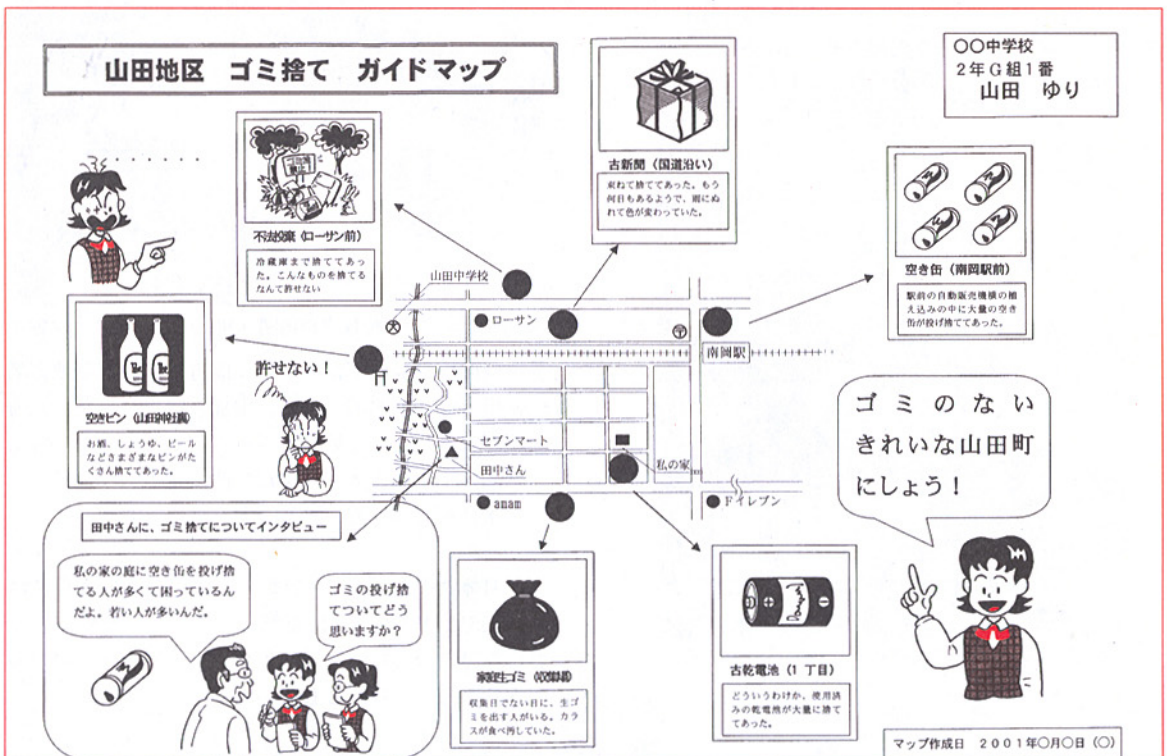
2. 分布図を作ろう

生徒は、小学校の生活科や社会科の時間に校外に出かけ、調査活動を行い、絵地図や白地図にまとめる学習を経験してきているが、そのねらいは地域社会に対しての理解を深めることであった。

中学校では、この小学校の学習に接続・発展させて市町村規模の地域的な特色をとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や、発表の方法の基礎を身につけさせたい。

そこで、地理的な見方の基礎を培う第一歩として、生徒自らが「どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか」という視点をもって調査活動を行い、地図化して分布図を作成する作業を取り入れたい。

地理的な見方を鍛えるためには、この分布図を作成する作業がもっとも効果的な方法である。つまり地理



的事象を地図化する作業である。

3. Myまちウォッチング (下参照)

生徒が意欲的に「身近な地域」を調査し、地図化する作業に取り組みたくなるようにするには、さまざまな工夫とアイデアが必要である。ここでは3点のポイントを紹介する。

①ねらい・評価の視点をはっきりさせる

この「身近な地域」の学習において、何を学ぶのかをはっきりさせることが大切である。「どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか」を明らかにするための学習であることを最初に押さえる。これは、そのまま評価の視点として活用する。

②手引き、サンプルを示す

生徒は、調査活動や地図化(分布図)する方法がわからなくては、意欲的に取り組みはしない。手引きにより、調査方法や地図化の方法を具体的に紹介する。

特に地図の作成に関しては、完成図であるサンプル(前ページ下段)を用意したい。このような手引きとサンプルを用意することにより、生徒は見通しを持って学習を進めることができる。「このようにやるのか」「これならやれそうだ」という見通しが「やる気」につながるのである

③オリジナル製を強調する

数学の答えと違い、その調査内容と分布図は多様であることを強調する。力のある生徒には、インタビュー活動を入れたり、分布図を作成したことにより発見したこと(規則性、法則性)を地図に記入する方法などを紹介する。また、どちらかと言えば調査活動に意欲のない生徒に関しては、私のお気に入りの場所マップやお褒めビューポイントマップなどを紹介し「おもしろそうだ、やってみよう」という気持ちを喚起させる工夫が必要である。

4. 地理的な見方を発展させよう

分布図を作成することにより、地理的な見方の初歩の段階を鍛えることはできるが、さらに地理的な見方を習熟させる必要がある。クラスの各生徒が調べて地図化したものを発表し合い、その各生徒の分布図を重ね合わせる作業(かかわり)により、「なぜ、そこでそのようにみられるのか」という地理的な考え方に結びつけながら地域的特色を見いだす視点をより深めていきたい。

何はともあれ、たとえ稚拙であっても生徒自らが実際に地域を調査し、分布図を描く地域調査の楽しみを味わうことが、地理的な見方育成の第一歩である。

2年社会科

地域調査・Myまちウォッチング

～オリジナルガイドマップを作ろう～

1. ねらい

- ①自分が住んでいる「身近な地域」に関して、テーマ(目的)をもって調査し、「どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか？」を明らかにしよう。
- ②調査した内容を、地図にまとめオリジナルガイドマップを作ろう。
- ③「なぜそれがそこにあるのか？」を考えてみよう。

2. 調査地域範囲

自分が住んでいる地域、日常生活している地域近辺

3. 調査人数

- 1人から3人までのグループ(クラスの枠はありません)
- ①2人または3人で行う場合は、人数に応じた調査規模・内容で行うこと
1人(小規模調査) 評価基準が甘い・・・評価が甘い
2人(中規模調査) 評価基準が普通・・・評価がふつう
3人(大規模調査) 評価基準がやや高い・・・評価がややきびしい
- ②グループの場合でもオリジナルガイドマップは、各自が作成し提出します。
- ③調査活動後、発表会を行います。

4. 調査方法

- ①調査するテーマを決定する。(ある程度、数が多いことが予想されるもの)
例) バリアフリー(点字ブロック) 標識マーク 樹木 トイレ マンホール 自動販売機 配達(新聞・牛乳・郵便・ごみ) ルート 収集ルート 公園 ベンチ オブジェ 生き物 ゴミ お褒めビュースポット 交通危険箇所 横断歩道 私の好きな場所 井戸端会議
※その他オリジナルテーマ(視点)は大歓迎(高ポイント)
- ②調査テーマが決定したら、地図でコースを考える(ルートマップの作成)
- ③持ち物
フィールドノート、筆記用具(スケッチができるペン)、カメラ又はデジタルカメラ 両手があくカバン、水筒、傘、タオル
- ④地域調査に出かける。 調査結果を記録する(カメラ、フィールドノート

活用)

- ⑤調査結果をもとにオリジナルガイドマップ(大画面紙2枚分)をつくる。

5. 提出期限 ○月○日(○)

提出物 → ガイドマップとフィールドノート

6. 評価

- ①自ら調査活動を行ったか?
- ②きちんとテーマ(視点)にもとづいて調査活動ができているか?
- ③調査活動の内容をわかりやすくオリジナルガイドマップにまとめてあるか?

7. フィールドのノートの具体的な活用法

- ①調査地域が決定したら、その調査地域範囲が入るように「校区地図」をコンビニなどでコピーする。(調査範囲により縮小・拡大を行う)→手書きの地図OK。
- ②調査地域範囲をコピーしたものを、フィールドノートにはる。
- ③調査活動を行いながら記入する。

8. オリジナルガイドマップの作り方(裏面の見本参照)

- ①調査地域の範囲を、コンビニなどでコピーする。(調査範囲により縮小・拡大を行う)→手書きの地図でもよい。
- ②画面紙の真中に調査地域範囲の地図(コピーまたは手書き)をはる。
- ③調査カード(右の調査カード参照)を作成する。
(1)写真またはスケッチ (2)タイトル
(3)状況、感想
- ④調査カードを調査地域範囲の地図のまわりにはる。
- ⑤地名名 ○○ガイドマップ 右上に学校名・学年・クラス・番号・名前を記入する。
- ⑥右下に地図の完成日を記入する。
- ⑦インタビュー・一言メッセージ・私の主張を入れると高ポイントになる。
- ⑧イラストを描いたり、きれいに色をつけたりして仕上げると高ポイントになる。

